

Fontaine

nouvelle

vol. 45

発行日 2014年10月25日
発行/岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Email:fontaine@sensyu.ne.jp
<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

Music Art 'nd Theater Association

文化の伝承

シテ方観世流能楽師 大槻文藏



杉江能楽堂にて、今秋も岸和田能が行われ私は通小町の能をさせていただきます。

これは観阿弥の作品で、今年はちょうど観阿弥生誕680年になりますので、この作品が作られて650年位になります。

能は世界で1番舞台生命の長い芸術であります。ギリシャ悲劇はもっと古くに出来ましたが、途中中断され、現在復活の運動がされていますが、元々の形を復元し、後世に伝えるのはなかなか難しいようです。シェークスピアが約200年後、文楽・歌舞伎もそれくらいになります。

能の約700年の歴史の中にはやはり盛衰の時期がありましたが、時の権力者の庇護を受け、途切れる時なく続いてきた、世界で最も長いライブを続けております。

能は舞と歌で表現する劇・・・ミュージカルです。室町時代のミュージカル、室町ミュージカルです。

そして能は舞台上での上演ばかりではなく、歌の部分は謡として謡う楽しみ、カラオケ的要素も持ち、台本である謡本は超ロングセラーであります。そして能を溺愛した秀吉は、自身を主演にした能まで作らせたりして、数多くの能を舞いました。

しかし現在、能の浸透率は低いと思います。観られた事のない方が多いのも事実です。能に限らず伝統芸能・伝統音楽が民衆から遠ざかったのは戦後の学校教育の西洋一辺倒による弊害です。子供たちに我が国の持っている伝統を伝えるべく国もやっと重い腰を上げはじめてくれました。私共も全国を廻って「次世代に伝統芸能を伝える」事業を積極的に、率先してやっております。

文化の基盤こそが自国の質の高さです。それをもって他国の文化と競合、共栄することこそが地球の栄える源だと思います。

能に限らず、日本には素晴らしい舞台芸術が数多くあります。それに豊かな風土、世界に誇る科学、蓄積された文化、なんと豊饒な国ではないでしょうか！

今大事なことは、これらを次世代に伝えることです。

伝統や文化は一朝一夕では成りません。途絶えたらおしまいで取り返せるものではありません。行政、当事者、国民の三者が一体となって本腰を入れてやっつけていかねばならない事です。

私は、私の出来る限りを尽くして参りたいと思っております。

海事法界で国際的に活躍

海事法学者

松波仁一郎



にいちろう

松波仁一郎は、岸和田藩士松波仁右衛門・八重夫婦の一人息子として1868年（明治元年）1月1日並松町に生まれた。地元の小学校では、学力が教師を上回ったため卒業免状だけもらって中退し、1881年京都の同志社英学校に入学、4年には助手となって邦語神学生に英語を教授し、同志社予備校でも英語を教えた。卒業後上京して1886年第一高等中学校に進学、学生時代は「同級の塩原金之助（後の夏目漱石）・正岡常規（後の正岡子規）等と持ち回りで銘々の下宿に集まってシェークスピアの研究をし…」（松波仁一郎「目あきの垣のぞき」より）と、まさに「坂の上の雲」（司馬遼太郎著）に描かれている時代の真っ只中を生きただのである。

1890年一高を主席で卒業、1893年帝国大学法科大学参考科第一部（＝英法）も首席卒業。卒業後は大学院に進学する一方、法典調査会書記（梅謙次郎専属）を命じられ、民法典の編纂に協力する。更にその後商法典の起草委員補助にも任命される。1897年文部省官費留学生に選ばれ、海法研究のため英仏米独4カ国留学を命じられる。1900年（明治33年）5月東京帝国大学助教授発令、11月帰国後12月には教授の発令を受けた。

1893年帝国軍艦 千島と英国商船 ラベンナが瀬戸内海にて衝突し、浪速艦長東郷平八郎（当時は大佐）がラベンナを撃沈し、日英間法律上、政治外交上の問題となった。日英両国ともに大議論が生じ、殊に日本には英国に対する恐怖心から、正論を言い出せない者が多かった中、当時海軍省参

事官であった松波は、適法である旨の意見書を海軍省に出した。

1894～1895年の日清戦争を経て、1896年海軍大学校が刷新された。この時、校長には東郷平八郎（当時は少将）が就任、仁一郎は海事法や一般海法等の教官となり、これらの縁で東郷平八郎とは終生親しく交わることとなった。

仁一郎は母の教えにより終生天神様への崇敬の念を篤く持っていたので、沼天神社の社務所前に表は東郷平八郎揮毫の「報恩」の文字、裏面は松波の生涯を記した立派な石碑を建立している。

ラベンナ号撃沈時の意見書は、

1899年ロンドン、1900年パリの「万国海法会議」において「軍艦商船の衝突に関する議案」を提出

1900年 ロンドンにて「軍艦商船衝突論」を著述し、世界の大統領、学者、政治家等に献呈

1923年 スtockホルム「万国海法会議」にて「船舶占有権について」演説

1924年 ロンドン「国際船主会議」において「船舶占有権について」演説

また同年、ロンドンにおいて「公船責任論」を著述し世界の大統領、学者、政治家に献呈という結実を見ている。

また仁一郎は、歌舞伎を大いに愛したようで随筆集「牛の込合ひ」に、初代中村鴈治郎を53年間臆しにし、その死去に当たり得意とした演目はほとんど見たことや、鴈治郎を招いて宴席を設けた様子なども記述して偲んでいる。

第2次世界大戦中、「国旗博士」として戦意高揚に努めたが、1945年（昭和20年）11月3日腎臓病のため岸和田の生家で病没した。

大正十三年発行
「市制記念岸和田要鑑」に寄せられたもの

題詞

自治ノ本義明ニ共榮ノ聲滿ル際岸和田市制成ル
文物産業ノ發達其形ヲ爲シ萬衆ノ誠其因ヲ爲ス
要鑑克ク其具體表現ヲ映ス今人現状ヲ知ル可ク
後人當時ヲ探ル可シ余東都ニ居ル四十年本籍
不斷郷地ニ在リ今祝シテ感深シ仍テ識ス

大正十二年五月奉命渡歐前

正四位 松波仁一郎

松波氏直筆題詞

祝! 30周年マドカホール
市民文化のオアシスとして

今年マドカホール(岸和田市立文化会館)は開館30周年を迎えました。その歴史と今後の展望などを、大西吉之助館長にお聞きしました。



アートマルシェ・ダンスレッスン

マドカホールの役割について教えてください。

落成当時から泉州地域の文化発展の先駆的な役割を果たしてきました。平成14年浪切ホールが建設されてからは、自主事業を中心に青少年の鑑賞事業などに力を入れてきました。また、貸館事業にも積極的に取り組み、多くの市民の学習団体や能や演劇の練習、最近では子どもたちのヒップホップ教室などにも使っています。皆さんが使い易い身近な会館を目指しています。

マドカホールとして目指していることはありますか。

文化のまち作りをしていく中で子どもたちをいかに育てるか、それがこれからも課題だと思っています。そのためにも子どもたちに多くのことを体験してもらえ、それをホールとしても行っていきたいと考え、今年8月9日から2日間子どものためのアートマルシェを開催しました。ベビーマッサージなどの乳幼児を対象にした内容から、中学生までを対象にした「お芝居」づくり、障害児対象のダンスレッスンなど幅広い年代の子どもたちが集まって来れる内容作りに力を入れました。当日は残念ながら台風による大雨でしたが、多くの子どもたちが集まって来てくれ、みんなのワクワク感のお陰で大成功の催しをすることができました。



アートマルシェ・ベビーマッサージ

また子どもの文化に対する好奇心から、大人の文化への関心へと繋いでいきたいとも思っています。

マドカホールの自主事業はどのようなものがありますか。

市展、マドカ合唱祭、文化祭やマドカホールの育成団体であるマドカドラマスクール、岸和田市少年少女合唱団、岸和田市音楽団の定期公演などです。

これらの事業は歴史もあり、岸和田の文化振興に重要な役割を果たしてきました。特に少年少女合唱団は、4年に1度欧州(スペイン・サンセバスチャン)公演を行い、老人ホームや教会で地域の人たちと触れ合う中で、国際的な文化への関心を育ててきました。

昨年(H25年)文化振興条例が制定されましたが。

マドカホールが中心となってこの条例を推進していく立場にあります。文化振興計画は策定中ですが、文化活動を通じた子どもたちの生きる力と感性を育てる役割とともに国際交流にも取り組んでいきたいと思っています。

30周年記念事業にはどのようなものがありますか。

催しとしては一年を通して行っています。アートマルシェやマドカ合唱祭、育成団体の公演などすでに終わった催しもありますが、記念公演である11月1日の歌舞伎舞踊公演や、市内で活躍する岸和田市文化協会、岸和田文化事業協会、岸和田文化連絡協議会が主催するさまざまな事業が企画されていますので、ぜひご家族でお越しいただければと思います。

最後に…

みなさんにもっともっとマドカホールの良さを広く知っていただく努力をこれからも行っていきます。気軽にマドカホールに来てみてください。

お待ちしております。

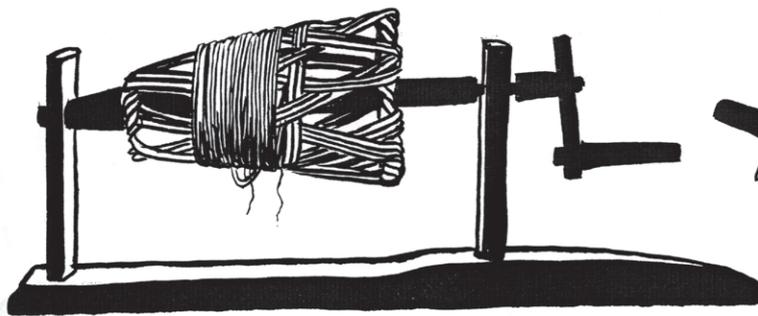
(取材・文 小島栄子・本郷元子)

日本の民具

12ヶ月

吉田太郎 文

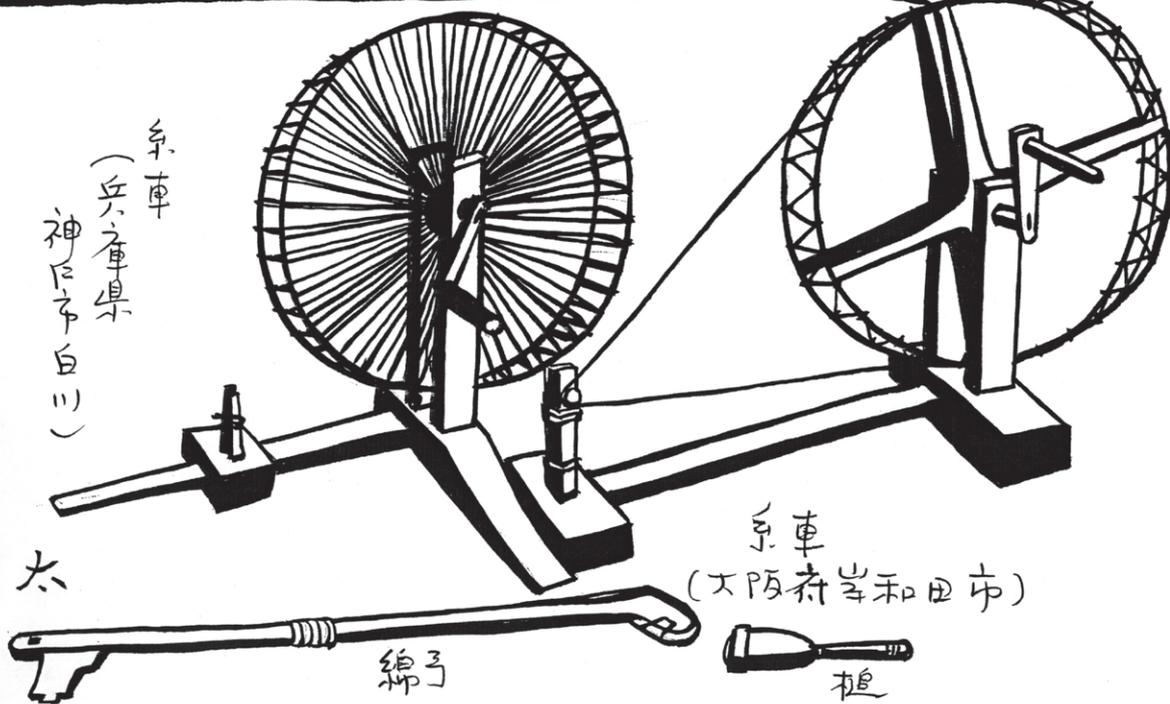
糸系巻取り機
ガワガワマキ
(青森県上北)



綿繰り機
みどり
(三重県志摩郡)



糸車
(兵庫県の
神戸市白川)



糸車
(大阪府岸和田市)

太

綿子

槌



今回「岸和田慢歩」は休載します。

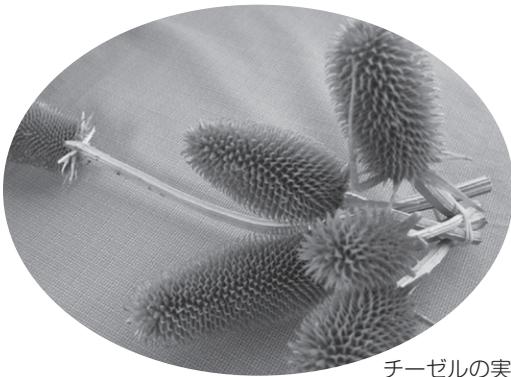
替わって、ふぉんてーぬ vol.34 (2012年1月15日発行) の「ゆかりの人々」にて紹介した染色画家・吉田太郎氏の「日本の民具 12ヶ月」の内から、今回は「糸車」の絵(墨・単彩画)をご覧ください。

吉田太郎氏は多方面で活躍されましたが、代表作は「万葉の旅」でありました。万葉の歌、万葉に歌われた風景をこよなく愛されていました。庭の花々も「和花でなくては」と言われ、万葉に歌われている植物などを集めておられました。その同じ眼差しで、人々の日常生活に欠かせない生活用具や諸道具類を描かれています。これらを使って黙々と仕事をする人たちの温もりが伝わってくる感じがします。

今後不定期にご紹介します。

(本郷 元子)

チーゼル^{らしゃかき} (羅紗搔草)



チーゼルの実

「チーゼル」と聞いて、チーゼルの実の形やチーゼル畑の風景を思い浮かべる人も少なくなっている。

泉大津市の毛織物産業でチーゼルの需要があり、特に上町の特産品と言われ、一面チーゼル畑が広がっていたが今はもう全くなっている。

チーゼルは、ヨーロッパ原産のまつむし草科の二年生草本。長さ10cmほどにもなる頭状花の熟した実を乾燥させて毛織物の起毛に使用するので「ラシャ搔き草」の名がある。

チーゼルは、高級なカシミア織物の起毛に現在も使用されている。

泉大津市のフカキ毛織(株)でチーゼル起毛の様子を見学させていただいた。

カシミア織物の最後の仕上げ工程で使用されており、直径が背丈に余る程の大きなドラムの外側に無数のチーゼルがついている。チーゼルを縦に付けた湿式起毛ドラムと、横向きにつけた乾式起毛ドラムがあり、求める表面感により使い分ける。現在もチーゼル起毛をしているのは、フカキ毛織(株) 始め数少ないと聞いている。

主力はワイヤー起毛だが、これは直針で横糸しか引つ搔かず毛密が粗くふわりとは立たない。更にチーゼルで起毛するとチーゼルの無数の棘の背にある産毛のような微細な棘が縦糸に触れて毛を搔く。毛密とふんわり感を出すためにはチーゼルは欠かせない、これは人工化は不可能なものとのことであった。

理事の藤田保平氏に、このチーゼルを栽培された経験をお聞きした。

チーゼルの栽培・収穫・製品化は、大変な仕事。先ず2~3月に山土に種を蒔く。5~6月頃に10cmに成長した苗を畝立てした田に3~5cm間隔に植えなおす。11月頃米を収穫後の田に今度は30~40cm間隔で定植する。翌春軸芽が出ると芯を摘み取り、脇芽を4~5段だけ残し下の脇芽は摘み取る。1本のチーゼルから収穫する実は8~10個だけ。夏至の頃に実を収穫。切り取った実は天日干しする。雨続きで乾燥に失敗すると商品価はゼロとなる。

株の引き抜きもまた大変。ひと握りに余る太さで茎にも葉の裏にも一面に無数の鋭い棘がある。冬用のジャンパーを着、手にはグローブのような厚い布製手袋を着け、炎天下で滝のような汗を流しての作業。

株を引き抜いた後の田は直ぐに耕し水を入れ、密植していた稲の田植えをしなおす。実に慌ただしく大変な作業だった、と振り返えられた。

※羅紗=羊毛の毛織物



チーゼル 染色 藤田 一代 (岸和田風物百選より)



Ichigo-Ichien

私と茶

西念 秋夫

焼き物と茶は、切り離せない関係にあります。

焼き物師になるなら、茶を知らないと茶碗はできないよと、千亀利窯の加藤泥二氏より言われていました。

しかし茶を習う所も知らず、独学でやろうと、茶の本「ザブックオブティー」の日本語版を買いました。

岡倉天心の書で、茶の理想を表した本でした。

海外の人は、日本語の教科書としてこの本を使っていて、日本を訪ねる外国人は、茶の文化を理解して、侘びを求めておられます。

江戸時代、泉大津に藤林宗元という茶人がいて、片桐石州がおとずれました。

宗元は利休の子、道安堺千家の茶を受け継ぎ、石州は侘び茶を習いました。

石州は、小堀遠州の茶に侘びがないことを家綱に進言し、武士の茶を石州流に変えました。

私は、五風荘の田舎家茶室を寺田さんよりいただき、大和小泉の慈光院より先生をまねき、宗元の茶を教わることになりました。

亡くなった広報部会長の和田正則さんも、田舎家で茶を習い始め、喫茶店を岸和田駅前に作り、「のだて」と名付けられました。

今年の慈光院観月茶会は、私の当番となり、テーマをさがしていましたが、二月堂修二会、籠松明を見る機会があり、アペノハルカスでは、東大寺展もひらかれました。

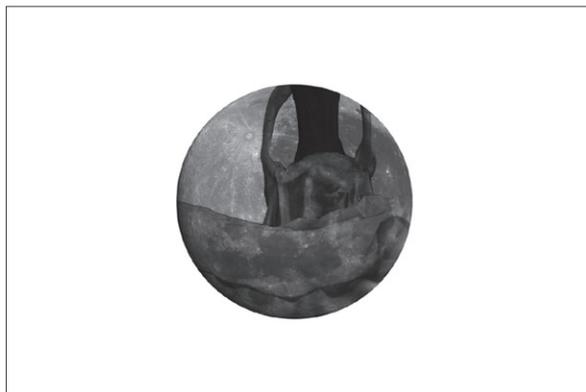
そこで大仏をテーマに観月会をおこなうことに。なんとかうまくはこべましたよ。



水差し (奈良三彩) 筆者作

重森三玲、中川幸夫、そして、現代美術。

稲垣 智子



Moon シルクスクリーン 2014

京都の重森三玲庭園美術館を見にいったのは10年ほど前になるでしょう。館長の重森三明さんは美術の研究所の先輩にあたり、岸和田からきた私に、三玲氏が作庭した岸和田城の八陣の庭とそこで行われた野外展が載っている本を紹介してくれました。

日常の風景となっていた岸和田城の前の庭を写真で改めて見ると、そのモダンさと大胆さに気づきました。驚いたことには、1955年にそこで行われた野外展では生け花の革命児と

言われた若き日の中川幸夫氏も出品していました。美術作家として活動していた私は、中川氏の生け花に興味があったし、その時には彼はすっかり有名だったのです。

このことは、文化的で芸術的な岸和田という印象を与え、同時に、この芸術の側面をもっと紹介したほうがいいのではないかと気づかせてくれました。

さて、2014年9月、岸和田文化事業協会との共催で、自泉会館にて現代美術の展覧会「ただいま。カーネーションと現代美術。」を企画しました。泉州ゆかりの国内外で活躍中のアーティストを集めて行われたこの展覧会、将来、重森三玲氏や中川幸夫氏のように芸術分野において名を残す人も出てくると思います。アーティストたちと地域の関係性を深めるには、定期的で刺激的な芸術活動を続けて育てていく必要があります。

例えば、歴史ある建物が混じった美しい街並の近い未来の岸和田。国際的に活躍するA氏の展覧会を見に自転車で10分。そこで、近所のBさんのNYでの個展が大盛況なことを知る。近くの本屋に立ち寄ると小学校の同級生だったCさんの新しい小説が出ている。文化が日常に溶け込む生活、ステキじゃないでしょうか？

Event Report

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

アンケートからの抜粋

第1回 自泉Re.フレッシュコンサート

平成26年8月2日(土)
午後6時30分～

演奏活動をしばらく休止していた方、他のお仕事をしながら音楽を学んでこられた方、また、子育ても終わり再度音楽の勉強を始められた方々を出演対象としてコンサートを企画しました。今回、ピアノとソプラノ、バリトンの5人によるコンサートを自泉会館ホールで実施し、102人の入場者がありました。



皆さんの声

- ◆久しぶりに素敵な時間を過ごせました。良い企画をしていただき、有難うございました。
- ◆出演者の懸命の演奏は観客に通じます。皆さん素晴らしい演奏でした。
- ◆歴史ある素晴らしい会館に辿りつきびっくりしました。建物を生かした催し、家族的な集まり、とても良い時間を過ごすことができました。有難うございました。
- ◆一緒に歌えて楽しかったです。第2回、3回へと続いてほしいです。
- ◆5人のエンターティナーの皆様の演奏に、心が震えました。感動を有難うございました。

陶芸講習会 平成26年8月5日(火)午後1時～ 平成26年8月26日(火)午後1時～

西念副会長に講師をお願いし、作成から素焼きまでと絵付けの2回に分けて、陶器作りにチャレンジしました。

皆さんの声

- ◆先生が作っているのが簡単そうに見えるのに、実際自分で作ってみると非常に難しかったです。
- ◆思うようには出来なかったけれど、とても楽しかったです。
- ◆作業中は、緊張してハラハラドキドキしました。
- ◆神経を集中して頑張りました。
- ◆形を作っていくうちに、作品がだんだん大きくなっていきました。



「ただいま。カーネーションと現代美術。」展

平成26年9月3日(水)～10日(水) 正午～午後7時00分

岸和田出身や泉州にゆかりのある若手アーティストによる映像やオブジェ等の現代美術展を自泉会館ギャラリーにて開催し、期間中436人の入場者がありました。



関連ライブイベント

Yugiによるクリスタルボウルライブ 平成26年9月5日(金)午後7時～

岸和田市内にある真言宗寺院の僧侶でもあるYugiによるクリスタルボウルや電子楽器テノリオンの演奏など、癒し系の心安らぐ音を楽しむコンサートを自泉会館ホールで実施し、78人の入場者がありました。

皆さんの声

- ◆こんなに間近で音を体感できて、文字通り瞑想的な心地を味わいました。
- ◆水晶の音色が素晴らしかったし、電子音でこんなに癒されるとは思いませんでした。
- ◆全く初めて知ったジャンルの楽器と演奏、こんな機会に出会えてよかったです。



関連イベント

芥川賞作家 吉村萬吉氏の芸術のはなし +参加アーティストトーク

平成26年9月7日(日)午後4時30分～

2003年の芥川賞受賞者であり、現代美術展の出品者でもある吉村萬吉氏の講演会及び他の出品作家も加わったアーティストトーク会を実施し、71人の参加者がありました。



ピアノデュオの軌跡～木村貴子&関口康祐10年のあしあと～

平成26年9月6日(土)
午後4時00分～

皆さんの声

- ◆会場の雰囲気(80年の歴史のレトロ)とデュオ10周年記念コンサートがマッチしていて、これまでにないコンサートを鑑賞出来たことを喜んでいます。
- ◆お二人のピアノワールドに引き込まれるような感動の時間でした。力強さと優しさ、息の合ったデュオ素晴らしかったです。
- ◆MCも楽しく、合間も楽しめました。生き生きとした演奏でした。
- ◆ピアノの音色の清冽さ、深さ、演奏の素晴らしさに引き込まれました。
- ◆ピアノだけの演奏に思えないほどの幅が聴こえ、エキサイティングでした。

2005年にデュオを結成以来、数々のコンクールの2台ピアノ、連弾部門で上位入賞を重ね、2010年かやぶき音楽堂デュオコンクール連弾部門において優勝した実績を持つデュオによるピアノコンサートを自泉会館ホールで実施し、63人の入場者がありました。

第41回自泉フレッシュコンサート ～秋に思いをはせて～

平成26年10月5日(日)
午後2時00分～

ピアノやヴァイオリンのコンサートを自泉会館ホールで実施し、132人の入場者がありました。

皆さんの声

- ◆演奏はどの方も本当に素晴らしく、こんな安い入場料で聴かせて頂き、優雅な半日を過ごせました。
- ◆30分の持ち時間で、ピアノの世界、ヴァイオリンの世界に引き込まれて素晴らしかったです。
- ◆若いエネルギーが素晴らしいコンサートでした。
- ◆こんな素敵な機会を持つことができ、とても良い気持ちです。クラシックに触れる機会が増えると嬉しいです。
- ◆あっという間の2時間でした！ありがとうございました。



岸和田文化事業協会の事業 Information

第42回 自泉フレッシュコンサート ～名曲を訪ねて～

音楽を学び、プロフェッショナルとして歩み始めた新人演奏家によるコンサート

日時:平成26年12月5日(金)午後6時30分開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場料:会員前売1,000円(当日200円増)

一般前売1,200円(当日200円増)

出演者:植木瑠璃子(ピアノ)・山家谷憲司(テューバ)
星川 響子(ピアノ)・吉里 瞳子(声楽)
原 由莉子(ピアノ)



2015年の干支 ひつじの置物を作りました

パッチワーク通信社発行「ちいさな季節の飾り物」に掲載されたひつじ(座布団付き)を作ってみませんか。

講師:小木曾 由季

日時:平成26年12月9日(火)午後1時30分～

会場:岸和田市立自泉会館 会議室

申込締切日:12月3日(水)

参加費(材料費):会員 500円 一般 700円

※お手持ちの裁縫道具をご持参ください。

※電話、FAX、e-mail のいずれかで申込み。住所、名前、電話番号をお知らせください。

新春 邦楽の調べ

～乙女文楽と長唄～

大正末期に大阪で考案された、女性が一人で一体の人形を遣う「乙女文楽」等をお楽しみください。

日時:平成27年1月31日(土)午後2時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場料:前売 2,000円(当日500円増)

チケット発売日:会員=12月2日(火)
一般=12月9日(火)

出演者:吉田 光華

今藤 和歌美

望月 太明十郎

演目:「七福神」「茄子とかぼちゃ」「黒髪」他



■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで

TEL/FAX 072-437-3801

Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

第4回 自泉ジュニア コンサート



オーディションで選ばれた小学生～高校生によるコンサート

日時:平成27年3月8日(日)午後2時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場料:無料(当日先着100名まで)

出演者を募集します!



ピアノ・声楽・弦楽器・木管楽器演奏に限ります。

(複数名での演奏も可、ただしコーラス等は不可)

♪対象年齢 小学生～高校生

♪参加費 2,000円

♪出演のためのオーディションがあります!

コンサートで演奏する曲(3分～8分程度)をご用意ください。オーディションでは、3分程度で演奏を中断していただくこととなります。また、伴奏者が必要な方は各自用意ください。

♪オーディションの日程

平成27年2月7日(土) 午後2時～

学年順により演奏。(演奏順は変更できません。)

♪申込方法

氏名・学年・住所・電話FAX番号・演奏曲目(作曲者名)・演奏時間・演奏楽器名をお書きの上、11月29日(土)までに参加費を添えて自泉会館へお持ちいただくか、下記の住所へ郵送でお申し込みください。郵送でお申し込みの方は、参加費を下記までお振り込みください。

お申込みいただいた方には、12月25日(木)までにオーディションの案内を郵送いたします。

郵便振込 口座番号 00970-9-28145

加入者名 岸和田文化事業協会(振込料は各自負担ください。)

♪申込み・問合わせ

岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

文化情報

文化の日祝典記念事業

フルートアンサンブル SAKURA ジェンヌ
PREMIUM コンサート～もっともっと輝く未来へ!

オーケストラの楽器の中で一番高い音で明るく華やかな音色を醸し出すのがフルートです。フルートには5つの種類があります。その透き通った音色の違いを味わってください。

日時:平成26年11月3日(月・祝)午前11時30分開演

会場:マドカホール(荒木町1丁目)

出演:平岡洋子とフルートアンサンブルSAKURAジェンヌ

入場料:無料(要整理券) 定員:300人

受付:10月4日(土)から申込先着順

申込方法:①往復はがきでお申込ください。

はがきに住所、氏名(返信はがきには宛名)、電話番号、人数(2人まで)を記入し、マドカホール「文化の日祝典」係まで

②整理券をお求めください。

マドカホール・自泉会館で整理券を配付します。(1人2枚まで)

申込先・問合わせ:マドカホール「文化の日祝典」係

〒596-0004 岸和田市荒木町1-17-1 TEL 072-443-3800 (月曜日休館日)

編集後記...

災害に襲われるたびに、日頃の備えや避難所の確認などの大切さを実感します。

それと同じように今住んでいる土地の歴史や由縁などを、もう一度調べてみようと思います。川の流れや裏山の言い伝え、竹林の大きさなど先人たちの災害に対する知恵がそこにはあり、祠や小さなお地蔵さんにもすべて意味があるものです。

秋に向かい気候もよくなってきました。散歩がてらに自分たちの住んでいる土地のこと、今一度見直してみたいと思います。(小島栄子)

nouvelle Fontaine vol.45

発行:岸和田文化事業協会

発行日:2014年10月25日

◆事務局

〒596-0073

岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員

小島栄子・歯黒猛夫

藤田保平・本郷元子

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索